

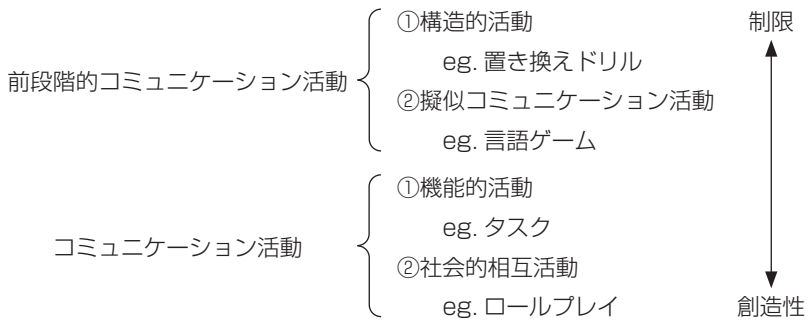
## 第 5 章

### 「できる」中国語を目指すための教室活動

外国語教育のために行われる教室活動は、2種類に大別できる。1種類は、「できる」力を育成するための活動であり、「コミュニケーション活動」(Communicative activity)と呼ばれる。もう1種類は「できる」力の基礎となる「わかる」力を訓練するための活動であり、「前段階的コミュニケーション活動」(Pre-communicative activity)と呼ばれる。「前段階的コミュニケーション活動」には、①機械的置き換えの「ドリル」のような言語構造を中心とした「構造的活動」(Structural activity)、②「言語ゲーム」のような、言語構造をある架空の状況において練習を行う「擬似コミュニケーション活動」(Quasi-communicative activity)があり、いっぽう「コミュニケーション活動」には、①「タスク」のような意思伝達の実現を目的とする「機能的活動」(Functional activity)、②ロールプレイのような、機能的意味だけではなく、特定の場面や人間関係における社会的に適切な意思伝達の実現を目的とする「社会的相互活動」(Social interaction activity)がある (Little wood, 1988; 小山内, 2002)。図 5-1 はこのような教室活動の分類を示している。

「前段階的コミュニケーション活動」は、言語形式を流暢に操る能力の訓練を目標としているので、制限された表現内で活動が行われるのがふつうである。したがって、この活動は「制限された活動」(Controlled activity)とも呼ばれる。「コミュニケーション活動」は、言語形式を用いた意味の伝達が効果的に行われることを目的としているので、学習者が言語の表現 (なにを言うか、どう言うか) に関しては選択の自由がある。したがって、この活動は「創造的活動」(Creative activity)とも呼ばれる。言い換えれば、図 5-1 が示したように、教室活動における制限がゆるやかで、非具体的になるにつれて、学習者の創造性の幅が増していくのである。

図 5-1 教室活動の種類



Littlewood (1988)、小山内 (2002) を参考に作成

「前段階的コミュニケーション活動」、特に「構造的活動」（例えば、置き換え練習、反復練習、問答練習など）はオーディオリンガル教授法でよく使われている。また、多くの中国語教科書や外国語教育法の論著に紹介されている。そのため、本章では、それについての考察は省き、「擬似コミュニケーション活動」「機能的活動」「社会的相互活動」を焦点に、具体的な例を示しながら、それらの教室活動の展開方法を紹介してみたい。

## 5.1 擬似コミュニケーション活動：言語ゲーム

言語ゲーム (language game) というのは、ゲームという架空の状況を利用し、ゲームを楽しみながら、文法知識・規則を練習することによって、形式と意味を関連させる教室活動である。言語ゲームが「擬似コミュニケーション的」なものとして下位区分されるのは、この活動が純粋に言語構造を中心にした「構造的活動」とは対照的に、言語の形式的特徴だけでなく、コミュニケーションの特徴をも考慮に入れているからである (Littlewood, 1988)。言語ゲームは、その操作あるいは指導が簡単であるという利点から、教室活動として頻繁に使われている。

以下、具体例を取り上げて、言語ゲームを行う手順について説明する。

## 言語ゲーム 1：(ジェスチャーゲーム) “他在干什么？”

### 目的

- ①既習の「動詞＋目的語」の語彙、「動作進行中」の表現の復習。
- ②スピーキングとリスニングによるやりとり能力の訓練。

### 材料

クラス人数分の白紙のカード

### 方法

- ①クラスを A・B 2つのグループに分ける。それぞれのグループが相手のグループにしてもらいたい「動作進行中」の文を話し合い、その結果を各自のカードに書いておく。
- ②グループ A からゲームが始まる。グループ A がグループ B の 1 人にだけカードを見せ、カードの書かれている通りのジェスチャーを求め、グループ B のほかのメンバーに“他（她）在干什么？”と聞く。
- ③グループ B はそのメンバーのジェスチャーを見て、“他（她）在＋動詞＋目的語”（例えば、“他（她）在打太极拳”）と答える。
- ④正解の場合は、グループ A は“对，他（她）在打太极拳”と評価し、カードをグループ B に渡す。不正解の場合は、“不对，他（她）在跳舞”と答えを明かし、カードを残す。
- ⑤次に同じ手順でグループ B がグループ A に当てさせる。両グループのカードを全部使い終わったら、ゲームが終了となる。
- ⑥判定。カードを多く取ったグループが勝者となる。

### 留意点

- ①ウォームアップとして最初に教師のジェスチャーを当てさせれば、ゲームのやり方がよりよく理解され、楽しい雰囲気作りにもなる。
- ②クラス人数の多い場合は、4 グループや 6 グループにして、2 グループ間に対抗させてもよい。
- ③ゲームの進行に支障をきたさないように、学習者の書いたカードが正しいか、あるいはジェスチャー可能なものかなどを、教師が教室を回ってチェックする必要がある。

### 利点

- ①ジェスチャーを通して、動作を推測しながら語彙・文型の練習ができるので、活気が出て楽しく学習できる。
- ②動作で中国語を表現することは、恥ずかしさを取り除くのに役立ち、学習効果の向上が期待できる。

### 応用

“猜猜这是什么？”“猜猜这是什么运动？”“猜猜这是什么动物？”などのタイトルで、品物・スポーツ・動物に関する単語の練習や「動詞＋目的語」の語彙の練習をすることもできる。

### 活動記録

某大学初級クラス学習者12人に、動作の進行を表す「“在”＋動詞」の学習後、教科書にいままで出てきた「動詞＋目的語」の組み合わせの単語を読ませて復習し、ゲームのやり方を説明する。その後、グラスを6人ずつのA・B2グループに分け、出題のためのカードを配り、さきほど読んだ単語を参考にしながら、グループ同士で話し合って問題を決める。

#### 問題準備段階

A5 : え～、なにを書けばいいの。

A6 : 難しいのを出そう。

.....

A2 : (A1の“穿毛衣”をみて) どうして消したの。

A1 : (A6のカードを指差して) かぶってる。(言いながら“看书”に直す)

A2 : それは簡単だから、「音読する」ほうにして。

A1 : そうだね。(さらに“念书”に直す)

.....

B5 : (カードに漢字およびピンインで“在车站”と書く)

教師 : 「彼はなにをしていますか」という問いに「彼は駅にいます」と日本語では答えますか？

B5 : (困惑)

B4 : (頭を横に振る)

教師：「彼はどこにいますか」なら「彼は駅にいます」と答えますね。動作で問題を出さないと。

B5：だめか。（“去车站”に直す）

#### 問題発表段階

An：他在干什么？

B2：（A2から渡されたカードをみて、ハンドルを握って運転するふりをする）

Bn：車の運転？

B2：（運転するふり、足を椅子にかけて休むふりをする）

Bn：え～、なに、それ？

B2：（運転、休むふりをして、さらに、望遠鏡で遠方を見るふりをする）

Bn：え～、分からない。  
ますます分からない。

教師：じゃ、最終結論を出しましょう。もう一度聞いてください。

An：他在干什么？

Bn：（迷いながら）他在开车。

An：不对，他在坐船。

Bn：ええ、それか！

.....

Bn：她在干什么？

A4：（B4から渡されたカードをみて、頭を上げ、豪快な飲みぶりをする）

An：あ～、わかった。她在喝啤酒。

教師：对不对？

Bn：对，她在喝啤酒。

.....

An：他在干什么？

B5：（A5から渡されたカードをみて）え、え、これどうやるの。（頭を抱えて悩む）あっ、わかった。（片手にボトルを持ち、もう片手でふたを取るふりをする）

B6 : ああ～、わかった。お前好きなやつだろう。え～、なんだっけ（同じグループのメンバーに助けを求めるが、応答なし）……“奶牛”か。

B4 : それか。単語はなんだっけ。（教科書を見ようとする）

教師 : 今は教科書を見るのは禁止。

B3 : 覚えていない。

教師 : じゃ、答えて下さい。質問のほうから。

An : 他在干什么？

B6 : (自信なさそうに) 他在喝奶牛。

教師 : 对吗？

A3 : 对。

A2 : 単語が間違っている。

教師 : じゃ、間違いですね。

An : 不对，他在喝牛奶。

B6 : “牛奶”か。逆だった。

教師 : (黒板に“牛奶”“奶牛”を書き、意味の違いを説明する)

A+B : (笑う) 乳牛を飲む！

## 言語ゲーム 2 : (メモリゲーム)「なにをみた？」

### 目的

- ①既習の語彙・文型表現の練習。
- ②状況に合ったライティング能力の訓練。

### 材料

クラス人数分の絵 (図 5-2) と紙。

### 方法

- ①クラスの 1 人 1 人に絵を配り、3 分間ほど時間を与えて、絵の内容を記憶させる。
- ②時間になったら教師が絵を回収し、紙を配る。絵に描かれていた内容を思い出しながら、紙に自由に中国語文を書かせる。
- ③教師が絵を再度提示し、学生が書いた文を口頭で報告し、ほかの学生が教師と一緒にその文を採点する。報告された文が絵の内容と一致し、か

つ文法的にも正しい場合は、得点を得られる。

- ④最終判定。得点の高い学生が勝者になる。

図 5-2 メモリゲームに使う絵



### 留意点

- ①できるだけ多くの文を書かせるようにするために、学生のレベルによって、最低何センテンス以上を書くとか、あるいは同じ文型の反復を避けるなどの条件を設けるのも刺激になる。
- ②クラス全員を席順で発表させるより、教師がレベルの低い学生から高い学生へという順で当ててゆくと、易から難への問題解決の方向になり、それぞれのレベルの学生の意欲を引き出すことができる。
- ③1人の学生が発表するとき、ほかの学生の集中力が分散することを避けるために、採点シートを配ってもよい。

### 利点

- ①絵を覚えてその内容について自由に中国語を作成するため、学生は自分の能力に応じて自分のことばで文を書くことができ、積極的に活動に取り組むことができる。
- ②発表することによって、学生間の相互学習の機会をもたらす。



**応用**

絵の内容を過去の出来事、あるいは未来の出来事と仮定して取り組ませると、「動詞＋“了”」「要……了」の練習もできるし、あるいはカラーの絵を採用すると、色に関する語彙の練習もできる。

**回答例（初級クラス）**

①得点した文

男的看着报纸。  
爸爸看着报纸。  
他正读着报纸呢。  
男人在看报纸。  
男人戴着眼镜。  
女的弹着钢琴。  
女的看着乐谱。  
妈妈弹着钢琴。  
她正弹着钢琴。  
她很漂亮。（議論した結果、認められた）  
现在三点。  
现在下午三点。  
猫在桌子下。  
猫在睡觉。  
猫正在睡觉。  
猫在桌子下面睡觉。

②得点できなかった文

爸爸妈妈在。  
他见报纸。  
她弹。  
她训练钢琴。  
她是很愉快。  
猫睡觉着。  
今天星期天。

女的坐着椅子。

他们坐在椅子上。

桌子的下在猫。

她爱他。(議論した結果、認められなかった。以下同様)

他是善良的人。

他们是夫妇。

## 5.2 機能的活動：タスク

「タスク (task)」という用語は、一部の教科書・論著では「作業」という日常的な意味として解釈され、例えば、「タスク」を「文法ドリル」の意味として用いている教科書もある (相原ほか、2008)。しかし、コミュニケーション・アプローチの発展につれ、「タスク」の概念は専門用語化され、現在は「あるコミュニケーション目的を成し遂げるために行う作業や課題」と定義されている (小山内、2002)。

例えば、Wills (1999) がタスク中心の学習活動を論じる著書に、次の例を挙げて、「タスク」の概念を説明している。教師が学習者に絵を見せた後、それを隠して、「絵にあったことをもとに4つの文を作り、相手に言いなさい」と指示して行わせる作業は、「タスク」ではない。なぜなら、この作業は、コミュニケーションの目的のためになにかを達成して結果を出すものではないからである。しかし、同じことを「絵の内容について、4つの真実の文と2つのうその文を書き、それを相手に読んで本当のことを言っている文がどれか当てさせなさい」とすれば、その作業は「タスク」となる。本書では、「タスク」をこのようなコミュニケーション・アプローチの専門用語として扱う。

タスクは、学習者のある課題に取り組ませ、その課題解決の過程の中で目標言語を理解し使用する機会を与えることによって言語習得の促進を目指す。近年、学習者のニーズに合わせ、タスクを選び、タスクを中心にシラバスを編成し、授業を組み立てるという「タスク中心教授法」(task-based instruction / task-based language teaching) が提唱されるようになった。

ている（例えば、高島、2000；白畑、1999）。タスク中心教授法は、「相互交流仮説」(the Interaction Hypothesis) を「アプローチ」としている。すなわち、意味を伝え合おうとする双方向の努力（意味交渉：negotiation of meaning）が、学習者に理解可能なインプットや、相手からのフィードバック、およびアウトプットの機会などを与えるため、言語習得が促進されるとするのである。

効果的なタスクは、①到達点が明確である、②情報交換を必要とする、③実際のコミュニケーションと同じ、または類似した作業である、④内容が現実の社会活動と深く関わっており、学習者の興味・関心、および知的レベルに合っている、などの特徴をもっている。以下では、具体例を取り上げて、タスクを行う手順などについて説明する。

### タスク1：“介绍新朋友”

#### 目的

タスク・シートの自分に関する情報をもとに、それを相手に伝えたり、また、友達の情報を得たりすることによって、名前の聞き方、国籍の聞き方、職業の聞き方およびその答え方を練習する。

#### 材料

タスク・シート A、シート B、シート C、シート D（表 5-1.1～5-1.4）

#### 方法

- ① 4人で1つのグループになり、それぞれタスク・シート A、B、C、D を配布する。教師が学生にタスク・シートに書かれている中国語の意味およびタスクの内容を説明し、タスク・シートを互いに見せ合わないよう注意する。
- ② まず、シート A を持つ人がシート B の人に、シート C を持つ人がシート D の人に話しかけ、自分のシートに基づいて自己紹介する。この後、シート B を持つ人がシート A の人に、シート D を持つ人がシート C の人に自己紹介をする。
- ③ お互いに情報交換ができた時点で、グループ内で A さんが B さんを、B さんが A さんを、C さんと D さんに紹介する。同様に、C さんが D

さんを、DさんがCさんを、AさんとBさんに紹介する。

- ④最後にお互いのシートを見せ合わせ、タスクの完成度を評価する。

#### 留意点

- ①活動をする前に、教師がタスクに必要な会話例（例えば、名前を聞くときの“你叫什么名字？”“您贵姓？”、国籍を尋ねるときの“你是哪国人？”“请问，你是中国人吗？”、職業を尋ねるときの“你做什么工作？”、友人を引き合わせるための、“我来介绍一下，……”など）を学生と一緒に復習し、表現のバラエティーを用意しておく。
- ②紹介している場面がより自然に近いように、ジェスチャーを交えるなど、前もって指示しておく。
- ③この活動は、単元を復習するとき、あるいはテストをするときに用いてもよい。

#### 利点

- ①日常生活によくある「紹介」の場面を利用した会話活動によって、自分のことについて相手に伝えたり、相手の情報について尋ねたりする能力、また、情報交換を通して得た友達に関する情報を介しつつほかの人に紹介したりされたりする場面への対応能力が訓練される。
- ②「紹介」する場面を通して、ことば以外のコミュニケーション手段（例えばジェスチャーなど）、文化の側面（例えば、初対面の礼儀など）にも触れることができる。

#### 応用

中国語を学び始めたばかりの学生の場合は、グループの人数を減らし、ペアでの自己紹介のみのタスクにしてもよいし、レベルの高い学生の場合では、インフォメーション量を増やしたり（例えば、名前、国籍、職業のほか、名前の書き方なども入れる）、グループ人数を増やしたりする（例えば、大勢の人と出会える国際会議のパーティーの場面とする）ことも可能である。

表 5-1.1

## タスク・シート A

1. B さんと会話をして、彼（彼女）の名前や出身地、職業を聞き、下の表を埋めましょう。

|     | あなた  | 友達 1 | 友達 2 | 友達 3 |
|-----|------|------|------|------|
| 名前  | 张力   |      |      |      |
| 出身地 | 中国上海 |      |      |      |
| 職業  | 銀行職員 |      |      |      |

2. 知り合った B さんのことについて、グループのほかの 2 人に紹介しましょう。
3. 紹介されたら、上の表にその人たちのことを記入しましょう。

表 5-1.2

## タスク・シート B

1. A さんと会話をして、彼（彼女）の名前や出身地、職業を聞き、下の表を埋めましょう。

|     | あなた  | 友達 1 | 友達 2 | 友達 3 |
|-----|------|------|------|------|
| 名前  | 大山一郎 |      |      |      |
| 出身地 | 日本大阪 |      |      |      |
| 職業  | 学生   |      |      |      |

2. 知り合った A さんのことについて、グループのほかの 2 人に紹介しましょう。
3. 紹介されたら、上の表にその人たちのことを記入しましょう。

表 5-1.3

## タスク・シート C

1. Dさんと会話をして、彼（彼女）の名前や出身地、職業を聞き、下の表を埋めましょう。

|     | あなた  | 友達 1 | 友達 2 | 友達 3 |
|-----|------|------|------|------|
| 名前  | 李小华  |      |      |      |
| 出身地 | 中国北京 |      |      |      |
| 職業  | 日语老师 |      |      |      |

2. 知り合った D さんのことについて、グループのほかの 2 人に紹介しましょう。
3. 紹介されたら、上の表にその人たちのことを記入しましょう。

表 5-1.4

## タスク・シート D

1. Cさんと会話をして、彼（彼女）の名前や出身地、職業を聞き、下の表を埋めましょう。

|     | あなた  | 友達 1 | 友達 2 | 友達 3 |
|-----|------|------|------|------|
| 名前  | 金大中  |      |      |      |
| 出身地 | 韓国   |      |      |      |
| 職業  | 公司职员 |      |      |      |

2. 知り合った C さんのことについて、グループのほかの 2 人に紹介しましょう。
3. 紹介されたら、上の表にその人たちのことを記入しましょう。

## 活動記録（初級クラス）

A ⇄ B

A：你叫什么名字？

B：我叫大山一郎。你呢？

A：我叫张力。你老家在哪儿？

B：我老家在日本大阪。你呢？

A：我老家在中国上海。你做什么工作？

B：我是学生。你呢？

A：我是银行职员。

**C ⇔ D**

C：你叫什么名字？

D：我叫金大中。

C：你是哪国人？

D：我是韩国人。

C：你做什么工作？

D：我是公司职员。你叫什么名字。

C：我叫李小华。

D：你是哪国人？

C：我是中国人。

D：你做什么工作？

C：我是日语老师。

**A (B) ⇔ C · D**

A：我来介绍一下，他叫大山一郎，他是日本人，他是学生。

C · D：你好。(手を出して握手を求める)

B：你们好。(手を出して握手をする)

**C (D) ⇔ A · B**

C：他是我朋友，叫金大中。韩国人。他是公司职员。

D：初次见面，请多关照。(お辞儀をする)

A · B：初次见面，请多关照。(お辞儀をする)

**タスク2：“比一比 说一说”**

**目的**

身近な人や事物を話題に、比較文を使ってお互いの意見を伝え合う。